

徒然なる日記1201123～格差が あること～

E-book推進協会

格差があること

格差社会が喧伝されて久しい。喧伝するのはマスコミだ。言い出した手前、格差を取り上げては、その是正を声高に叫んで差を少しでも縮めようとする。マスコミのその姿勢は一部正しいと思う。

でも、そもそもその格差はどこで、どのように生じたものかを突き詰めて考えた報道はとんと少ない。個人的には見たことない。ただただ、ホームレスや非正規労働者の不遇を取り上げて、「恵まれているはずの日本でこんな実情があるんです、知ってましたか」と居丈高に解説する。

知っている。そんな暮らしがあることを多くの人知っている。でも目をつぶって自分さえ良ければそれで良いという姿勢がまず、ある。他方で、そうした不遇を嘆く人たちは往々にして自助努力が足りない。「派遣ぎりに遭った。明日の希望が持てない。救いの手も差し伸べられない。生きる価値がない」。そういうある意味、単純明快な思考回路に凝り固まった人間像を、マスコミは垂れ流す。でもその番組やニュースを見て、一時的に「へえ、かわいそうだな」とか「まあ自業自得なんじゃん」とか思う。でも思うのは一瞬ですぐ自分の生活に戻る。無関心が繰り返される。

格差。それはどこにでもある。あって当たり前だ。平等に生きるなんてありうるはずがない。千年先を見通したとしてもそんな社会、決して訪れない。

でも、信じてことがある。底上げはできる、ということだ。明日の食事に困る暮らしを続ける人は、100年以内になくなると信じる。職がなくて生活に困るという人はいなくなる。生活には困らなくなるから。とりあえず生きることにはできる世界が来る。

格差の問題は、そこにある優劣の感情論だろう。「私はあの人より収入が低い、ステータスで劣る」。そういう相対的な感覚が克服されない限り、格差の問題はなくなる。

なぜこんなことを書いているか。自分が一番劣等感を持ちながら生きている人間だから。

2012年11月23日記す